

山形県政に新風を!



Contents

- 平成28年6月定例会
一般質問
- 平成28年12月定例会
予算特別委員会
- 平成28年12月定例会
安全・安心対策
特別委員会
- 活動スナップ



青年局メンバーで、萩生田光一内閣官房副長官と懇談（平成28年11月 首相官邸）

次代に誇れる山形県を目指して

日頃より私、佐藤聡の議員活動に温かいご支援、ご指導を賜り厚く御礼申し上げます。この一年間も、鶴岡、庄内地方では天皇皇后両陛下の行幸啓、出羽三山の日本遺産認定、国立がん研究センターの一部移転、酒田港への外航クルーズ船寄港決定など、明るい話題が続きました。このことは、歴史ある伝統文化から最新の先端生命科学まで、鶴岡の皆さんが育んできた豊かな地域資源が、国内外に通じる価値や魅力を持っていることの証です。

私は、特色ある地域づくりに取り組んでいる鶴岡、庄内地方を、山形県が政策面、予算面でしっかり支援し、山形創生につなげるという視点に立って、議員活動を行ってまいりました。

これからも、現場主義で実態を把握し、地域が抱える課題の解決に向けて取り組むとともに、次代を見据えた価値ある政策を実現できるよう、研鑽を重ねてまいります。今後とも引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

山形県議会議員 佐藤 聡



Q&A

山形県議会では2月、6月、9月、12月に定例会が招集されます。昨年は6月定例会本会議一般質問、12月定例会予算特別委員会で質問に立ちました。また定例会の会期中、並びに閉会中の委員会審査で常任委員会、特別委員会が開催され、所管事項に関わる県政課題について活発な議論が行われています。

また年に2回、庄内選出議員による「庄内地域議員協議会」を開催し、庄内総合支庁長をはじめ、職員出席のもと、庄内地域の課題について、調査、審議を行っています。

【平成28年6月定例会 一般質問】

◆収益性の高い農業経営実現に向けた取組み



質問：佐藤 聡

収益性の高い農業経営と若手の就農には、相関関係がある。努力が収入として報われる、収益性の高い農業経営実現に向けて、どのような支援に取り組んでいくのか。

答弁：農林水産部長

複合経営、規模拡大、経営の多角化など担い手として期待される経営体へ誘導するとともに、トップランナーを目指す意欲ある経営体に対しては、農地中間管理機構による農地の集積・集約支援や、施設整備、機械導入などオーダーメイド型助成のほか、各種事業採択においても優先的に支援する。経営マネジメント能力が重要であることから、農業経営法人化支援協議会や普及組織による経営改善研修会の開催、複式簿記指導、経営アドバイザー派遣などの経営力向上のための支援を強化していく。さらに今年度中に、新たなトップランナー像とその実現にむけたアクションプランを策定し、収益性の高い経営体育成を加速していく。

◆日本遺産「出羽三山」認定を契機としたブランド化戦略



質問：佐藤 聡

「出羽三山」の日本遺産認定を契機に、観光立県山形の中核となる観光エリアとして、情報発信や受入態勢の整備に一層力を注ぐべきと考えるが、具体的な取り組みは。

答弁：観光推進監

県、地元市町、関係団体等で構成する「出羽三山『生まれ変わりの旅』推進協議会」を設立する。出羽三山の歴史・文化に対する県民意識の高揚と魅力向上を図るためのシンポジウム開催、外国人に対応できる案内ガイドの養成や、文化財解説板設置などの受け入れ態勢の整備、多言語対応のサイトの開設や観光PR映像の制作などによる情報発信などに取り組む。さらには、本県ならではの取り組みとして、山形交響楽団とのコラボレーションによる新企画や、文化的活動等の協力を約束しているイタリアのピアノ財団と連携した情報発信を行い、文化・国際・観光交流を推進していく。

出羽三山の日本遺産認定を記念した山形交響楽団の野外コンサート
(平成28年10月)

【平成28年6月一般質問 その他の質問項目】

- 先端生命科学研究を活かした地方創生戦略
- クマ等大型野生鳥獣被害対策
- 捕獲の担い手確保
- 出羽三山へのアクセス道路整備
- 少年自然の家の活用と施設整備

【平成 28 年 12 月定例会 予算特別委員会】

❖ 湯野浜海岸の飛砂防止対策

質問：佐藤 聡

湯野浜地区では、砂浜の拡大に伴って、特に冬期間、強い西風に砂が飛ばされ、国道 112 号に堆積したり、旅館や住宅、車などにぶつかったりするなどの飛砂被害が発生している。飛砂防止対策を求める要望が地元自治会からあがっている。飛砂防止対策について県の考えは。

答弁：県土整備部長

県では、観光客の多い温泉旅館が並ぶ県管理の国道 112 号沿い 667メートルの区間に飛砂防止柵を兼ねた防雪柵を設置している。一方、南側の区間は未設置となっている。近年、砂浜への降雪量が少なくなったことが、冬期間に飛砂が増える一因となっている。加茂水族館などへの観光客が増え、年間を通じて休日の交通量が増大し、防雪柵がない箇所での対策の必要性が高まっていると考えている。県は、今冬から飛砂被害の実態調査を行って、鶴岡市や地元と相談をしながら、今後の対応方針を決めていきたい。【昨年 12 月から調査活動が進行中】



国道 112 号に堆積した砂

【平成 28 年 12 月定例会 安全・安心対策特別委員会】

❖ 羽越本線高速化のため、速達型リレー特急運行を目指して

質問：佐藤 聡

平成 30 年度に、新潟駅における上越新幹線と羽越本線との同一ホーム乗り換えの暫定供用が開始される。乗り換えの利便性が格段に向上するが、これにあわせて、停車駅が少ない速達型リレーいなほ号（仮称）を新設し、同じく速達型の新幹線と接続させ、時間短縮を図れるよう地元同盟会とともに JR 東日本に実現を働きかけてはどうか。

答弁：交通政策課長

速達型が実現すれば、東京－鶴岡間が 3 時間 10 分台になるとの試算もあり、時間短縮効果は高いと感じている。一方、運行主体である JR 東日本の事業計画や通過となる地域との調整もある。羽越新幹線整備に向けて、羽越本線の利用拡大は必要と認識しているので、観光施策とも連動させながら、庄内の同盟会や関係機関と連携して取り組んでいきたい。

【速達型特急新設の取組みは、2 月定例会で県会議長から知事に提出する「政策提言」に盛り込まれた】

新潟駅新幹線在来線同一ホーム事業工事
(本年 1 月 6 日撮影、新潟市 HP より)

【平成 28 年 12 月予算特別委員会 その他の質問項目】

- 探究型学習の推進
- 教員の指導力向上
- 教育現場での ICT 活用
- 通学路での交通事故発生状況と安全確保にむけた取組み
- 県産農産物の輸出拡大
- 食品ロス削減の取組み

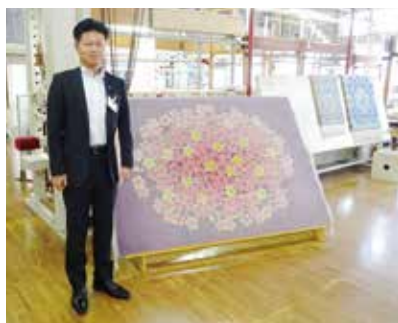
◆活動スナップ



県内の繊維織物産業振興の機運を盛り上げようと、恒例のきもの議会に和服で臨みました。(平成28年2月)



日本航空本社で、地方創生の取組みや運航管理の現場、働き方改革を進めている職場を視察しました。日本航空勤務時代からお世話になっている藤田直志代表取締役副社長と。(平成28年11月)



商工労働観光常任委員会で、オリエンタルカーペット株式会社(山辺町)を視察しました。皇居や首相官邸、歌舞伎座など日本を代表する建物に納入されています。(平成28年6月)



護岸が崩落しかけている現場を調査し、改修工事を要請しました。河川の維持管理に対する要望が多くなっています。(平成28年11月 上田沢川)



株式会社ヨロズエンジニアリング(三川町)を視察しました。国内外の自動車メーカーと取引があるヨロズグループ工場の、金型や生産設備を製造しています。(平成28年9月)



熊本地震で大きな被害を受けた益城町で、稲田忠則益城町議会議長から災害対応や復興の現状を伺いました。議場は被災当時の状態のままでした。(平成29年2月)



インバウンド(訪日外国人旅行)推進の取組みの中で、鶴岡へ誘致した中国からのゴルフツアー一行歓迎会。一行は鶴岡に3泊し、ゴルフや観光を楽しみました。(平成28年10月)



熊本地震発災直後から対応を指揮した有浦隆熊本県危機管理防災企画監(右端)より、教訓を踏まえた危機管理対応の要点を教えてくださいました。(平成29年2月)

佐藤 聡 プロフィール

昭和43年5月18日生

【略歴】 鶴岡南高校卒、早稲田大学政経学部政治学科卒、日本航空株式会社、鶴岡市議会議員(3期)

【現在】 商工労働観光常任副委員長、安全・安心対策特別委員会副委員長、広報広聴委員、自由民主党山形県連青年局長

【所属会派】 自由民主党

発行：佐藤聡事務所

住所：997-0031 鶴岡市錦町3-35第12庄交ビル
電話番号：0235-64-8166 FAX番号：0235-64-8156

電子メール：satosatoshi.office@gmail.com

ホームページ：http://www.satosatoshi.com

Facebook：https://www.facebook.com/satoshi.sato/